

## 夏休みの重さ

わずかな体重でも、帰り道は重い。  
遊び疲れたこどもは、ずっしりと重い。  
夏のこどもは、エネルギーに溢れている。  
夏休みを楽しみにして、待ちこがれていた  
そのエネルギーが、満タンだから。  
解放するには、やっぱり、海や山がいい。  
広い空の下、大きな自然の中がいい。  
はしゃいで、走って、転んで、笑って。  
そうして、エネルギーが空っぽになるまで。  
そのぶん、なにかを吸収しているのだ。  
まぶしい夏のすべてを、かき集めるように。  
この重さは、その思い出の重さなんだ。  
夏がくれた、たくさんの宝ものなんだ。  
しかし子どもたちは、それらの葛藤のなかで  
苦しんでもいるが学んでもいる。  
それらの矛盾や葛藤のなかから子どもたちが  
どのようにして何を学ぶのか、そのような見方、  
考え方をしなければならないのだと思う。  
矛盾や葛藤のなかから学んでいくには  
考えるとき、大事に思えるのは子ども  
の悩みや葛藤を保育者がわかろうとし、  
共に悩み考えよう、大げさなようですが、  
いわば共に生きようとする姿勢。  
ときには子どもが気持ちを切り替えられるよう  
な手助けも必要だが、ワンパターンの  
生活指導からは、なかなか学びは生まれない。